

精神障がいにも対応した 地域包括ケアシステム検討チーム



令和 5 年度の活動報告
令和 6 年度の活動計画

精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムとは

精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことが出来るよう、医療、障害福祉、介護、住まい、社会参加（就労等）、地域の助け合い、普及啓発（教育等）など様々な機関や資源が有機的に連携をしていくシステムです。

精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チームの目的

精神保健福祉分野における地域診断・課題整理等を行い、それら課題改善に必要な取り組みを検討する事で精神分野における支援体制を構築していく為、地域全体の関係者が集まり顔の見える関係作りや、その場をベースに支援の検討や様々な情報共有や協議ができる場の設置運営や、具体的に課題改善に向けて取り組むプロジェクトを設置運営する等、体制作りに向けた取り組みを階層的に展開していく事を目的としています。

チーム構成メンバー

チームリーダー 山田龍宏（就労継続支援B型事業所ふくろう）
伊藤田恵子（サポートセンターひまり）
大平朋枝（三島森田病院）
長倉香奈子（文教町クリニック）
田中綾美（三島市保健センター）
久保田清花（地域包括支援センター三島）

令和5年度の活動

令和5年9月	チーム設置準備委員として検討開始（2回）
11月	チーム設置計画書承認・チーム設置準備開始
令和6年1月	第1回精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム 検討チーム会議
	・目的共有
	・各分野における課題の抽出

来年度の活動予定

会議を年4回実施予定

情報確認・共有

各分野における精神障がいに関する課題を抽出する
アーチに挙げられた地域課題からの再抽出

まずは、医療、保健、福祉のコアメンバーで様々な方向から検討を図り必要であればプロジェクト等を立ち上げる事も視野に入れながら、地域課題を丁寧に整理する事で、連携・改善を進めていきたいと考えております。